

ヒンディー語研修テキスト 1

文字と発音

町田和彦編

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所

1994

文字と発音

町田和彦編

まえがき

本テキストは1994年(平成6年)度、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所言語研修「ヒンディー語」のために作成された。

このテキスト作成にあたって、東京外国語大学外国語学部(インド・パキスタン語学科)の田中敏雄教授との共著「エクスプレス ヒンディー語」(白水社、1986)を自由に参照した。説明に関しては、変更した個所が少なくないが、それは私の考えが変わったためである。

このテキストの印刷用版下には、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ ¹⁾および $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 上のデーヴァナーガリーシステムであるFrans J. Velthuis氏のDevanagari for $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ version 1.2を使用した。さらに国際音声記号については、小林肇・福井玲・白川俊三氏によるTSIPAを使用した。これらの方々を含めて、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 上のさまざまなマクロ等を開発しているすべてのかたがたに感謝を捧げたい。

ここではあえてお名前は挙げないが、この教材作成は、多くの方の有形無形の援助を得て可能になった。私の準備不足から、本研究所の研修・情報処理係の中島さんには多大のご迷惑をおかけした。本研究所の高島淳助教授は、 $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の環境を整えてくださり、私のいろいろな質問に答えてくださった。これらの方々に、特にこの場をお借りして深く感謝を申し上げる。

町田 和彦

1994. 6. 28

¹⁾ $\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ はDonald E. Knuth氏の開発したコンピュータ組み版システムである。

目次

1	デーヴァナーガリー文字	1
2	母音字と子音字	2
2.1	母音字	2
2.2	子音字	4
2.2.1	軟口蓋・閉鎖音のグループ	5
2.2.2	硬口蓋・破擦音のグループ	6
2.2.3	反り舌・閉鎖音のグループ	7
2.2.4	歯・閉鎖音のグループ	8
2.2.5	両唇・閉鎖音のグループ	9
2.2.6	半母音のグループ	10
2.2.7	摩擦音のグループ	10
2.2.8	新しい子音(字)	11
2.2.9	形の似ている子音字	12
3	母音記号と鼻母音化記号	13
3.1	母音記号	13
3.2	鼻母音化記号	16
4	子音連続と結合文字	18
4.1	ハル記号	18
4.2	半子音字	18
4.3	結合文字	19
4.3.1	半子音字を使用する結合文字	19
4.3.2	半子音字を使用しない結合文字	19
4.4	鼻子音とアヌスワーラ	20
5	辞書における見出し語の配列順	21
6	つづりと発音のずれ	22
6.1	潜在母音の有無	22
6.2	ह ha の発音	24
6.3	半母音の発音	25
6.4	例外的な発音	26
6.5	語尾	27

7 日本語，ヒンディー語，英語の子音

28

8 読み方の練習

30

1 デーヴァナーガリー文字

ヒンディー語の表記に使用されるデーヴァナーガリー文字¹⁾は、南アジア・東南アジアで広く使われているインド系文字の一つです。デーヴァナーガリー文字は、ヒンディー語以外にもマラーティー語、ネパール語などの南アジアの現代語やサンスクリット語などの古典語の表記にも使用されます。

インド系文字は共通の源から変化した文字体系です。現存する様々なインド系文字(デーヴァナーガリー文字、タミル文字、クメール文字など)は、見た目の字形は異なっても、基本的には同じ文字の配列順、同じ音節文字構造(子音字+母音記号)をもっています。また日本語の50音図の成立とインド系文字の配列順は密接な関係があります。

デーヴァナーガリー文字はヒンディー語特有の音声を表記するのに適した文字体系です。テキストでは、最初に各文字の配列と基本的な音価(読み方)を学び、そのあと注意しなければいけないつくりと発音の規則を学ぶことにします。

テキストではデーヴァナーガリー文字の発音を表記するために、ラテン文字を主体にした一種の転写記号を使用しています。この記号は、基本的にはサンスクリット語を表記するための慣例となっている転写記号をベースにしていますが、いくつか独自の工夫がこらされています。この転写記号を採用した理由は、ヒンディー語の発音表記には、IPA²⁾ phonetic symbols の表記よりは、文字に対応した記号の方が理解しやすいこと、またサンスクリット語などインドの古典語をすでに学習した人やこれから学習しようとする人の便宜を考慮したためです。

独自に工夫された記号についてはそのつど説明をします。また必要に応じて [] の中で IPA 表記を併用しています。

1) देवनागरी devanāgarī

2) the International Phonetic Association

2 母音字と子音字

デーヴァナーガリー文字は、母音字と子音字に分けられます。伝統的な配列は母音字、子音字の順です。ヒンディー語辞書の見出し語の配列順もこれに従います。

文字は一行ごとに左から右に向かって、英語と同じ要領で、書かれます。単語ごとに切れ目(スペース)があります。

各文字の書き順の方向は、上から下へ、左から右へ、が基本です。すべての文字の上部にある水平線(シローレーカー)³⁾は書き順では最後になります。このシローレーカーは、単語単位で連結します。

以下の説明では各文字に、便宜的に、通し番号を付けておきます。

2.1 母音字

12個の母音字があります。奇数数字の文字は基本的に「アイウエオ」の順です。また文字の形でいえば、奇数数字の母音字にある要素を加えると偶数数字の母音字になることに注意してください。

1 अ a	3 इ i	5 उ u	7 ऋ r̄	9 ए e	11 ओ o
2 आ ā	4 ई ī	6 ऊ ū	8 ॠ ṝ	10 ऐ ai	12 औ au

³⁾ शिरोरेखा śirorekḥā

	文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
1	अ	a	[ə]	ॐ अ अ	「ア」の要領。口の開きが狭い短母音。
2	आ	ā	[ɑ:]	अ आ आ	「アー」の要領で、口をもっと開く長母音。
3	इ	i	[i]	८ इ इ	「イ」の要領で、唇をもっと左右に張り緊張させる。短母音。
4	ई	ī	[i:]	इ ई ई	「イー」の要領で、唇をもっと左右に張り緊張させる。長母音。
5	उ	u	[u]	उ उ उ	「ウ」の要領で、口をもっと突き出し唇を円める。短母音。
6	ऊ	ū	[u:]	ऊ ऊ ऊ	「ウー」の要領、口をもっと突き出し唇を円める。長母音。
7	ऋ	r̄	[ri]	ॢ ऋ ऋ	「リ」の要領。ヒンディー語では母音ではない。サンスクリット語からの借用語にだけ用いられる。
8	ॠ	r̄ī	[ri:]	ॣ ॠ ॠ	「リー」の要領。ヒンディー語では母音ではない。サンスクリット語からの借用語にだけ用いられる可能性があるが、実際には問題にならない。
9	ए	e	[e:]	॥ ए ए	「ネー」の要領で、唇をもっと緊張させる。長母音。
10	ऐ	ai	[ɛ:]	ए ऐ ऐ	「アー」と「エー」の中間(口を広く開けた「エー」)の要領。長母音。
11	ओ	o	[o:]	आ ओ ओ	「オー」の要領で、唇をもっと円める。長母音。
12	औ	au	[ɔ:]	आ औ औ	「アー」と「オー」の中間(口を広く開けた「オー」)の要領。長母音。

2.2 子音字

子音字は、古代インドで発達した精密な音声学の知識に基づいて規則正しく配列されています。⁴⁾

- 同じ調音点 (発音する際の舌の位置) ごとの子音の五つのグループ

1. 軟口蓋・閉鎖音のグループ
2. 硬口蓋・破擦音のグループ⁵⁾
3. 反り舌・閉鎖音のグループ
4. 歯・閉鎖音のグループ
5. 両唇・閉鎖音のグループ

1 から 5 までの各グループの順番は、調音点が口腔の奥 (軟口蓋) から次第にづれて唇まで向かう順番です。各グループの内部は、[無声/有聲] の対立と [無気/有気] の対立で区別できる 4 個の子音、そして鼻音の計 5 個の子音が以下のような順番で並びます。

	無声音	有声音
無気音	1	3
有気音	2	4
鼻音		5

無気音 k, g に対応する有気音は k^h, g^h というように、本書では有気音をあらわすために左肩に付く記号 h を使用します。

- 半母音のグループ
- 摩擦音のグループ

子音字は、単独では短母音 $a [a]$ ⁶⁾ を添えて発音される音節文字です。

⁴⁾ ヒンディー語では、各文字の音価は当時とは若干違ったものになっているものがあります。

⁵⁾ サンスクリット語では閉鎖音でした。

⁶⁾ 最初の母音字 अ の音です。

2.2.1 軟口蓋・閉鎖音のグループ

奥舌を軟口蓋につけ、呼気を一瞬閉じて破裂させる音。

	無声音	有声音
無気音	क ka	ग ga
有気音	ख k ^h a	घ g ^h a
鼻音		ङ ṅa

	文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
13	क	ka	[kə]	१ क २ क ३ क	無声・無気音。呼気が強くない「カ」の要領。
14	ख	k ^h a	[k ^h ə]	१ ख २ ख ३ ख	無声・有気音。呼気が強い「カ」の要領。
15	ग	ga	[gə]	१ ग २ ग ३ ग	有声・無気音。呼気が強くない「ガ」の要領。
16	घ	g ^h a	[g ^h ə]	१ घ २ घ ३ घ	有声・有気音。呼気が強い「ガ」の要領。
17	ङ	ṅa	[ŋə]	१ ङ २ ङ ३ ङ	鼻音。「サンカ、リング」などの「ン」の要領。

2.2.2 硬口蓋・破擦音のグループ

前舌を上歯茎近くの硬口蓋につけ、呼吸を一瞬閉じその狭い隙間から擦って出す音。⁷⁾

	無声音	有声音
無気音	च ca	ज ja
有気音	छ c ^h a	झ j ^h a
鼻音		ञ ña

文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
18 च	ca	[tʃə]	८ च च	無声・無気音。呼吸が強くない「チャ」の要領。
19 छ	c ^h a	[tʃ ^h ə]	९ छ छ	無声・有気音。呼吸が強い「チャ」の要領。
20 ज	ja	[dʒə]	७ ज ज	有声・無気音。呼吸が強くない「ジャ」の要領。
21 झ	j ^h a	[dʒ ^h ə]	९ झ झ	有声・有気音。呼吸が強い「ジャ」の要領。
22 ञ	ña	[ɲə]	७ ञ ञ	鼻音。「タンチョウ、ダンジョウ」などの「ン」の要領。

⁷⁾ サンスクリット語では閉鎖音でした。

2.2.3 反り舌・閉鎖音のグループ

反り舌にした舌の先端を歯茎に近い硬口蓋につけ、呼吸を一瞬閉じて破裂させる音。日本語には無い音ですが、調音点はほぼ「ラ」と同じです。反り舌であることを、転写記号では下付きのドットであらわします。

	無声音	有声音
無気音	ट ṭa	ड ḍa
有気音	ठ ṭʰa	ढ ḍʰa
鼻音		ण ṇa

	文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
23	ट	ṭa	[tʰ]	ㄱ ㄷ ㄷ	無声・無気音。反り舌にした呼吸が強くない「タ」の要領。
24	ठ	ṭʰa	[tʰʰ]	ㄱ ㄷ ㄷ	無声・有気音。反り舌にした呼吸が強い「タ」の要領。
25	ड	ḍa	[dʰ]	ㄱ ㄷ ㄷ	有声・無気音。反り舌にした呼吸が強くない「ダ」の要領。
26	ढ	ḍʰa	[dʰʰ]	ㄱ ㄷ ㄷ	有声・有気音。反り舌にした呼吸が強い「ダ」の要領。
27	ण	ṇa	[ɳ]	ㄱ ㄷ ㄷ	鼻音。反り舌にした「ン」の要領。

2.2.4 歯・閉鎖音のグループ

舌先を上の前歯の裏につけ、呼気を一瞬閉じて破裂させる音。⁸⁾

	無声音	有声音
無気音	त ta	द da
有気音	थ t ^h a	ध d ^h a
鼻音		न na

	文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
28	त	ta	[tə]	㇀ ㇁ ㇂	無声・無気音. 舌先を前歯の裏に付けた呼気が強くない「タ」の要領.
29	थ	t ^h a	[t ^h ə]	㇃ ㇄ ㇅	無声・有気音. 舌先を前歯の裏に付けた呼気が強い「タ」の要領.
30	द	da	[də]	㇆ ㇇ ㇈	有声・無気音. 舌先を前歯の裏に付けた呼気が強くない「ダ」の要領.
31	ध	d ^h a	[d ^h ə]	㇉ ㇊ ㇋	有声・有気音. 舌先を前歯の裏に付けた呼気が強い「ダ」の要領.
32	न	na	[nə]	㇌ ㇍ ㇎	鼻音. 舌先を前歯の付け根にしっかり付ける。「ナ」行の子音, 「アント, アンド」などの「ン」の要領.

⁸⁾ サンスクリット語では、このグループの他の子音同様、नも歯音 [nə] だった。

2.2.5 両唇・閉鎖音のグループ

両唇をつけ、呼気を一瞬閉じて破裂させる音。

	無声音	有声音
無気音	प pa	ब ba
有気音	फ p ^h a	भ b ^h a
鼻音		म ma

	文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
33	प	pa	[pə]	५ प प	無声・無気音。呼気が強くない「パ」の要領。
34	फ	p ^h a	[p ^h ə]	५ फ फ	無声・有気音。呼気が強い「パ」の要領。
35	ब	ba	[bə]	९ ब ब	有声・無気音。呼気が強くない「バ」の要領。
36	भ	b ^h a	[b ^h ə]	२ भ भ	有声・有気音。呼気が強い「バ」の要領。
37	म	ma	[mə]	५ म म	鼻音。「マ」行の子音、「サンボ、サンマ」などの「ン」の要領。

2.2.6 半母音のグループ

	文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
38	य	ya	[yə]	८ य य	「ヤ」の要領.
39	र	ra	[rə]	५ र र	巻き舌の「ラ」の要領.
40	ल	la	[lə]	८ ल ल	舌も前ふちを上上の歯茎にあて、舌の両側から呼気をだす「ラ」の要領.
41	व	va	[və]	० व व	上歯で下唇を軽く押さえ、その隙間から呼気を出す「ヴァ」の要領. 「ワ」と発音されることもある.

2.2.7 摩擦音のグループ

	文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
42	श	śa	[ʃə]	२ श श	「シャ」の要領.
43	ष	ṣa	[ʃə]	० ष ष	「シャ」の要領. ヒンディー語では 42 शと同じ音. サンスクリット語からの借用語にだけあらわれます.
44	स	sa	[sə]	८ स स	「サ」の要領.
45	ह	ha	[hə]	५ ह ह	「ハ」の要領.

2.2.8 新しい子音(字)

インド系文字にもともとあった33個の子音字(13-45)以外に、ヒンディー語ではさらに最大7個の子音字があります。これらの子音字は、歴史的に独自に発達した音(25', 26')や、アラビア語・ペルシャ語(13', 14', 15', 20', 34'), 英語(20', 34')などからの外来語に含まれる音を表記するために使用されます。文字の形そのものは、発音上近い関係にある既存の文字の下部に点(ヌクター)⁹⁾を付加したものです。ここでは参照の便宜のために元の子音字番号に'を付けて示します。

辞書における見出し語の配列順では、ヌクターの有無を無視しています。なお、外来語に含まれる音の表記に関しては、実際の印刷物や手書きではヌクターの有無は必ずしも厳密に守られていません。これは、一般の人すべてが正確な語源知識をもっているとは限らないという理由ばかりでなく、これらの音を含む外来語がヒンディー語に完全に同化してしまった理由もあります。そのためヌクターが付加されていても、元の子音字と区別して発音できない人は珍しくありません。テキストではヌクターの有無はなるべく区別して表記していますが、現実的な目安としては、20', 25', 26', 34' がしっかり発音できれば問題ありません。

	文字	Tr.	[IPA]	書き順	発音要領
13'	क़	qa	[qə]	क क़ क़	口蓋垂・無声・閉鎖音。下顎を固定した“奥まった”感じの「カ」の要領。実用上13 क ka で代用して構わない。
14'	ख़	xa	[xə]	ख ख़ ख़	口蓋垂・無声・摩擦音。奥舌を口蓋垂に近づけ、その狭い隙間から擦って出す「カ」の要領。実用上14 ख k ^h a で代用して構わない。
15'	ग़	ga	[gə]	ग ग़ ग़	口蓋垂・有声・摩擦音。奥舌を口蓋垂に近づけ、その狭い隙間から擦って出す「ガ」の要領。実用上15 ग ga で代用して構わない。
20'	ज़	za	[zə]	ज ज़ ज़	歯茎・有声・摩擦音。「ザ」の要領。この無声音は44 स sa。
25'	ड़	ra	[ɾə]	ड ढ़ ढ़	無気音。反り舌にし「ラ」の要領。
26'	ढ़	r ^h a	[ɾ ^h ə]	ढ ढ़ ढ़	有気音。反り舌にし「ラ」の要領。
34'	फ़	fa	[fə]	फ फ़ फ़	唇歯・無声・摩擦音。「ファ」の要領。この有声音は41 व va。

⁹⁾ नुक्ता nuqtā

2.2.9 形の似ている子音字

手書きで急いで書くと、似ているために判読しにくくなる子音字があります。

- 33 प pa, 37 म ma, 38 य ya
- 16 घ g^ha, 31 ध d^ha
- 37 म ma, 36 भ b^ha
- 26 ढ ḍ^ha, 30 द da
- 28 त ta, 32 न na
- 14 ख k^ha, 39+41 रव rava

3 母音記号と鼻母音化記号

3.1 母音記号

各子音字は、単独ではその子音字があらわす子音に最初の母音 a を添えて発音される音節文字です。子音にその他の母音を添えて発音させるには、子音字に一定の母音記号(マートル) ¹⁰⁾ を一定の位置に規則的に付けます。 ¹¹⁾ 最初の母音 a をあらわす母音記号はありません。

子音字を母音記号の組み合わせのリストをあげておきます。母音記号の形、付く位置に注意してください。

¹⁰⁾ मात्रा mātrā

¹¹⁾ 子音字に母音記号が付加されると、子音字は純粹の「子音文字」として機能します。

日本語のカナ文字のようにすべての音節文字(子音+母音)の字形が異なっている文字システムでは、子音の数が x 個、母音の数が y 個あれば文字の数は $x \times y$ 個必要です。しかしデーヴァナーガリー文字のようにインド系文字では、文字の要素は $x + y$ 個で済みます。

母音→	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	a	ā	i	ī	u	ū	r	r̄	e	ai	o	au
子音↓	अ	आ	इ	ई	उ	ऊ	ऋ	ॠ	ए	ऐ	ओ	औ
13	क	का	कि	की	कु	कू	कृ	कॄ	के	कै	को	कौ
14	क ^h	का	कि	की	कु	कू	कृ	कॄ	के	कै	को	कौ
15	ग	गा	गि	गी	गु	गू	गृ	गॄ	गे	गै	गो	गौ
16	ग ^h	गा	गि	गी	गु	गू	गृ	गॄ	गे	गै	गो	गौ
17	ङ											
18	च	चा	चि	ची	चु	चू	चृ	चॄ	चे	चै	चो	चौ
19	च ^h	छा	छि	छी	छु	छू	छृ	छॄ	छे	छै	छो	छौ
20	ज	जा	जि	जी	जु	जू	जृ	जॄ	जे	जै	जो	जौ
21	ज ^h	झा	झि	झी	झु	झू	झृ	झॄ	झे	झै	झो	झौ
22	ञ											
23	ट	टा	टि	टी	टु	टू	टृ	टॄ	टे	टै	टो	टौ
24	ठ	ठा	ठि	ठी	ठु	ठू	ठृ	ठॄ	ठे	ठै	ठो	ठौ
25	ड	डा	डि	डी	डु	डू	डृ	डॄ	डे	डै	डो	डौ
26	ड ^h	ढा	ढि	ढी	ढु	ढू	ढृ	ढॄ	ढे	ढै	ढो	ढौ
27	ण	णा	णि	णी	णु	णू	णृ	णॄ	णे	णै	णो	णौ
28	त	ता	ति	ती	तु	तू	तृ	तॄ	ते	तै	तो	तौ
29	थ	था	थि	थी	थु	थू	थृ	थॄ	थे	थै	थो	थौ
30	द	दा	दि	दी	दु	दू	दृ	दॄ	दे	दै	दो	दौ
31	द ^h	धा	धि	धी	धु	धू	धृ	धॄ	धे	धै	धो	धौ
32	न	ना	नि	नी	नु	नू	नृ	नॄ	ने	नै	नो	नौ
33	प	पा	पि	पी	पु	पू	पृ	पॄ	पे	पै	पो	पौ
34	प ^h	फा	फि	फी	फु	फू	फृ	फॄ	फे	फै	फो	फौ
35	ब	बा	बि	बी	बु	बू	बृ	बॄ	बे	बै	बो	बौ
36	ब ^h	भा	भि	भी	भु	भू	भृ	भॄ	भे	भै	भो	भौ
37	म	मा	मि	मी	मु	मू	मृ	मॄ	मे	मै	मो	मौ
38	य	या	यि	यी	यु	यू	यृ	यॄ	ये	यै	यो	यौ
39	र	रा	रि	री	रु	रू	रृ	रॄ	रे	रै	रो	रौ
40	ल	ला	लि	ली	लु	लू	लृ	लॄ	ले	लै	लो	लौ
41	व	वा	वि	वी	वु	वू	वृ	वॄ	वे	वै	वो	वौ
42	ś	शा	शि	शी	शु	शू	शृ	शॄ	शे	शै	शो	शौ
43	ṣ	षा	षि	षी	षु	षू	षृ	षॄ	षे	षै	षो	षौ
44	s	सा	सि	सी	सु	सू	सृ	सॄ	से	सै	सो	सौ
45	h	हा	हि	ही	हु	हू	हृ	हॄ	हे	है	हो	हौ

1. 母音記号の説明に使用した □ は任意の子音字を示します。
2. リストの中で空白はヒンディー語では使用しない字形です。
3. 母音記号 □ は子音字の右に付きます。
4. リストの中で □ で囲まれた音節文字は、母音記号の付く位置が例外的な字形です。

親族名詞を例に、読み方の練習をしましょう。

父方		母方	
男性	女性	男性	女性
दादा dādā	दादी dādī	नाना nānā	नानी nānī
चाचा cācā	चाची cācī	मामा māmā	मामी māmī
फूफा p ^h ūp ^h ā	फूफी p ^h ūp ^h ī	मौसा mausā	मौसी mausī

大きな字で書かれているものは、直接血のつながりのある親族です。

3.2 鼻母音化記号

それぞれの母音(10 ɾ 11 ɽ を除いたもの)に対応する鼻母音があります。転写記号では鼻母音であることを $\tilde{\quad}$ で示します。デーヴァナーガリー文字の鼻母音化記号は、シローレーカーの上部に付加されるチャンドラ・ピンドゥ ँ です。¹²⁾ ただしシローレーカーの上部に本来の文字や母音記号の一部がある場合はチャンドラ ँ を省略し、ピンドゥ ँ のみを付けます。¹³⁾

下は、非鼻母音と鼻母音の表記の対照表です。

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
転写記号	非鼻母音	a	ā	i	ī	u	ū	ɾ	ɽ	e	ai	o	au
	鼻母音	ã	ā̃	ĩ	ī̃	ũ	ū̃			ẽ	ãĩ	õ	ãũ
母音字	非鼻母音	अ	आ	इ	ई	उ	ऊ	ऋ	ॠ	ए	ऐ	ओ	औ
	鼻母音	अँ	आँ	इँ	ईँ	उँ	ऊँ			एँ	ऐँ	ओँ	औँ
母音記号	非鼻母音	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
	鼻母音	□ँ	□ँ	□ँ	□ँ	□ँ	□ँ			□ँ	□ँ	□ँ	□ँ

¹²⁾ चंद्र-बिंदु camdr̥ā-bimdu

¹³⁾ これは主に印刷上の事情です。

非鼻母音と鼻母音の違いに注意して読み方の練習をしましょう。

母音字		母音記号	
非鼻母音	鼻母音	非鼻母音	鼻母音
		सवारी savārī	सँवारी sāvārī
आधी ādhī	आँधी āñdhī	हाकी hākī	हाँकी hāñkī
आई āī	आँई āñī	मिली milī	मिलीँ milīñ
उगली ugālī	उँगली uñgālī		
कमाऊ kamāū	कमाऊँ kamāūñ	लू lū	लूँ lūñ
आए āē	आँए āñē	देखे dek ^h e	देखें dek ^h ē
		है hai	हैं hāñ
माताओ mātāo	माताओं mātāō	हो ho	हों hō

4 子音連続と結合文字

4.1 ハル記号

前に説明したように、単独の子音字は母音 a を含んでいて、そのままでは子音のみをあらわすことができません。強制的に子音のみを発音させるには、子音字の下にハル記号 □ を付加する方法があります。たとえば、

क ka → क् k
ख k^ha → ख् k^h

の要領です。

しかし実際の正書法では、この方法は最後の手段です。普通は半子音字と子音字が組み合わさった結合文字が使用されます。

4.2 半子音字

子音のみをあらわす半子音字は、基本的には子音字の最後の書き順を省略した字形です。何をどのくらい省略するかによって、子音字を3つのタイプに分類できます。

文字に縦棒が含まれているか	いる	1. 書き順の最後	ख, ग, घ, च, ज, झ, ञ, ण, त, थ, ध, न, प, ब, भ, म, य, ल, व, श, ष, स
		2. 書き順の途中	क, फ
	3. いない		ड, छ, ट, ठ, ड, ढ, द, र, ह

1. 書き順の最後の縦棒を省略します。ख k^ha は ख् k^h, ग ga は ग् g の要領です。
2. 元の子音字がわかる程度に書き順の最後を省略します。क ka は क k, फ p^ha は फ् p^h とします。それぞれ व va, प pa にならないように注意してください。
3. ハル記号を付加します。ड ña は ड् ñ, छ c^ha は छ् c^h の要領です。¹⁴⁾

¹⁴⁾ 語末では正書法上、半子音字は使えないため、半子音字がある文字もこのハル記号を使用します。例えば जगत् ではなく जगत् जगत् 「世界」の要領です。しかしこのような例は、サンスクリット語からの借用語に限られます。

4.3 結合文字

子音の連続を表わすために使用される文字を、特に結合文字と呼びます。子音字が CV を表わす文字単位であれば、結合文字は (C)CCV を表わす文字単位です。母音記号の付き方は、子音字に付く場合と同じです。

4.3.1 半子音字を使用する結合文字

半子音字と子音文字が組み合わさった結合文字は、視覚的には2つの独立した要素に分けて捉えがちですが、文字の単位としては一つとみなされます。

ṭaiksiyā 「タクシー」(複数形)という音の連続は、ṭai क्स्सि ksi यौ yā と3つの音節文字の連続になります。क्स्सि は結合文字 क्स्स に母音記号 िが付いた形です。

4.3.2 半子音字を使用しない結合文字

その他の結合文字は以下の通りです。¹⁵⁾

1. 子音連続 -Cr- : क kra, ख khra ग gra など。
2. 子音連続 -rC- : क rka, ख rkha ग rga など。¹⁶⁾
3. 縦に子音文字を並べる結合文字 : ङ nga, ढ ḍa など。¹⁷⁾
4. 例外的な結合文字 : क्श kṣa, ङ्ज jña ढ्द ḍḍa¹⁸⁾

¹⁵⁾ これらの結合文字のほとんどは、サンスクリット語からの借用語や、外来語の表記に使用されます。つまり、これらの結合文字が表わす子音連続は「本来の」ヒンディー語の語彙にはありません。

¹⁶⁾ この結合文字は語頭にはきません。したがって日本語「リョウリ」は र्योरि と書くか रियोरि と書きます。

¹⁷⁾ 現在のヒンディー語では印刷物でも手書きでもあまり使用しない傾向があります。

¹⁸⁾ 結合文字 ङ्ग の発音は ङ्ग gya と同じになります。

4.4 鼻子音とアヌスワラ

母音(V)に後続する鼻子音(N)と子音(C)の連続-VNC-は、結合文字で表記する方法(-V#NC-)と、鼻子音を直前の音節文字上部にアヌスワラ¹⁹⁾(M)で表記する方法(-VM#C-)があります。このテキストではアヌスワラの転写記号を m であらわします。どちらの書き方でもかまいませんし、発音も同じです。

鼻子音	結合文字 (-V#NC-)	アヌスワラ (-VM#C-)	意味
17 ङ	गङ्गा gaṅgā	गंगा gaṅgā	ガンジス川
22 ञ	पञ्जाबी pañjābī	पंजाबी pañjābī	パンジャービー語
27 ण	ठण्डा ṭhaṇḍā	ठंडा ṭhaṇḍā	冷たい
32 न	हिन्दी hindī	हिंदी hindī	ヒンディー語
37 म	बम्बई bambaī	बंबई bambaī	ボンベイ

つまりヒンディー語では、アヌスワラの音価は、直後に来る子音字と同じグループ(調音位置が同じ)の鼻子音であると自動的に判定できます。²⁰⁾

ヒンディー語の辞書では、これら二通りのつづりのうち、アヌスワラを含むつづりを見出し語に採用するのが普通です。²¹⁾

鼻子音同士が連続する場合(-NN-)、後の子音が半母音や摩擦音のグループに属する場合(-Ny-, -Nr-, -Nl-, -Nv-, -Ns-, -Nh-)は、結合文字で書きます。²²⁾

アヌスワラは、鼻母音化記号のチャンドラと形が同じですから、注意してください。

¹⁹⁾ अनुस्वार anusvārā

²⁰⁾ このことから、語末がアヌスワラで終わることはありません。例外はいわゆる「真正アヌスワラ」を含むサンスクリット語からの借用語 स्वयं「自ら」、एवं「そして」です。それぞれ स्वयम् svayam, एवम् evam と発音されます。

²¹⁾ サンスクリット語の辞書と異なります。

²²⁾ いわゆる「真正アヌスワラ」を含むサンスクリット語からの借用語 सिंह simhā「獅子」、हंस hamsā「ハンサ鳥」などは例外です。この場合のアヌスワラの発音は人によって、m や n になります。

5 辞書における見出し語の配列順

1. 音節文字単位で考えます。

2. 母音字が、子音字(結合文字を含む)に優先します。

अ, आ, इ, ... ओ, औ, क, का, कि, ... ह, हा, हि; ...

3. それぞれの母音(母音字, 母音記号)では, 鼻母音が非鼻母音に優先します。鼻子音をあらわすアヌスワーラは, 鼻母音化記号に準じるとみなします。

अंग, अँगड़ाई, ... अकड़, अखाड़ा

हंस, हँसना, ... हद, हक

4. 結合文字は非結合文字の後にきます。

जौ, ज्ञान, ज्यो, ज्योतिष, ... झगड़ा, झाड़ू

5. 子音字に付加されているヌクターの有無は, 優先順位に直接関係ありません。もしヌクターの有無のみで違う語は, ヌクターの無いものが優先します。

नुकता, नुकता

खाना, खाना

बेगम, बेगम

जमाना, जमाना

फन, फ़न

6 つづりと発音のずれ

6.1 潜在母音の有無

前に説明したように母音記号を伴わない子音字は、a(シュワー)²³⁾を添えて発音されます。子音字に最初から含まれているこの母音 a を潜在母音と呼ぶことにします。

現代ヒンディー語では、この母音 a は子音字が語の中で占める位置や前後の環境によって、発音されたり発音されなかったりします。現代ヒンディー語のつづりと発音のずれの大部分はこの現象に原因があります。

潜在母音(シュワー)の有無に関する規則は以下のとおりです。

は語の切れ目をあらわします。²⁴⁾

∅ は発音されない潜在母音(シュワー)をあらわします。

C, V はそれぞれ子音、母音をあらわします。

優先順位	環境	有無	つづり	→	発音	例
1	語頭子音字	a	#Ca-	→	#Ca-	न na कलā kalā
2	語末子音字	∅	-Ca#	→	-C∅#	कम kam∅ आप āp∅
3	子音連続の後	a	-CCa-	→	-CCa-	कंपनी kampanī
	子音連続の前	a	-aCC-	→	-aCC-	नमस्कार namaskār∅
4	直後の子音字の 潜在母音が ∅	a	-CaC∅-	→	-CaC∅-	नमक namak∅
5	直後が母音字	a	-CaV-	→	-CaV-	बढ़ई bar ^h aī
6	その他	∅	-CaCV-	→	-C∅CV-	परदा parādā

²³⁾ schwa

²⁴⁾ 合成語の場合は、形態素の境界です。例えば、अबला a-balā「手弱女」。

मतलब「意味」の発音が matʌlabʌ になる過程は、以下のとおりです。

規則	結果
1	matalaba #ma-
2	matalabʌ -bʌ#
4	matalabʌ -labʌ-
5	matʌlabʌ -tʌla-

従って、日本の地名や人名をデーヴァナーガリー文字で表記する場合注意が必要です。

たとえば「ヤマダ」の書き方

- × यमद yamadʌ
- × यमदा yamʌdā
- यमादा yamādā
- यामादा yāmādā

母音で始まる接辞が付加される、名詞や動詞の語尾活用では特に注意が必要です。

निकल nikalʌ निकला nikʌlā निकलता nikalʌtā
 इमारत imāratʌ इमारतें imārʌtē

この規則は、外来語の表記の「ゆれ」の原因となっています。

たとえば「絵、写真」を意味する二つのつづり तस्वीर tasvīrʌ と तसवीर tasāvīrʌ は、いずれも発音は tasvīr です。テキストでは、結合文字をなるべく避けるつづりを選びました。

6.2 ह ha の発音

1. Caha- あるいは CahaC- の環境では、前のシュワーが [e] の発音に聞こえます。

कहना kahānā [kehna:] 「言う」

पहनना pahanānā [pehenna:] 「着る」

2. 語末の -hā は、ほとんど聞こえないか、前の母音を軽く伴って発音されます。

यह yahā [je, jehe] 「これ」

जगह jagahā [jege, jegehe] 「場所」

3. 語中の -hu- は [ho] に聞こえます。

बहुत bahutā [bəhot] 「とても」

पहुँचना pahūcānā [pəhōʃna:] 「着いた」

6.3 半母音の発音

1. 語末では -य -yḥ, -व -vḥ は、それぞれ短母音 [e], [o] に聞こえます。

चाय cāyḥ [tʃa:e] 「お茶」

n samaya samayḥ [səmæe] 「時間」

नाव nāvḥ [na:o] 「舟」

2. 語頭を除く子音連続で、2番目が半母音の場合、直前の子音を二重にして(促音化して)発音される傾向があります。²⁵⁾

कन्या kanyā [kənnjɑ:] 「娘」

यात्रा yātrā [yɑ:ttrɑ:] 「旅行」

शुक्ल śuklḥ [ʃukkl] 「シュックル(姓)」

विद्वान vidvānḥ [viddva:n] 「学者」

²⁵⁾ これらは、ほとんどが借用語です。つづりとして तस्वीर tasvīrḥ より तसवीर tasāvīrḥ 「絵」がいいのは、この語では促音化が起きないからです。

6.4 例外的な発音

1. 語末が ाँव āv̄ṅ のつづりは [ɑ:õ] の発音になります。
गाँव gā̄v̄ṅ [gɑ:õ] 「村」
2. जन्म janm̄ 「誕生」の発音は जनम janam̄ と同じになります。
3. वह vah̄ 「あれ」の発音は [vɔ] になります。
4. ペルシャ語からの借用語 व va 「そして」は [o] と発音されます。

6.5 語尾

(本来の)ヒンディー語の語尾は、原則的には、長母音または子音(子音連続を除く)で終わります。もし短母音や子音連続で終わっていれば、外来語かサンスクリット語からの借用語と考えるとさしつかえありません。

7 日本語，ヒンディー語，英語の子音

下の表は，ヒンディー語の子音を，調音点（水平方向）と調音様式（垂直方向）から分類したものです。²⁶⁾ 説明の便宜上，若干の日本語，英語の子音も並べてあります。子音は，各言語の使用文字（デーヴァナーガリー文字，カナ文字，ラテン文字）で示してあります。

子音 व्यंजन consonant の表

	両唇音 द्व्योष्ठ्य bilabial	歯唇音 दंतोष्ठ्य labiodental	歯音 दंत्य dental	歯茎音 वर्त्य alveolar	硬口蓋歯茎音 वर्त्सतालव्य postalveolar	反り舌音 मूर्द्धन्य retroflex	硬口蓋音 तालव्य palatal	軟口蓋音 कंठ्य velar
閉鎖音 स्पर्ष plosive	ババ प फ ब भ p b		त थ द ध	タダ t d		ラ ट ठ ड ढ		カガ ク ख ग घ k g
鼻音 अनुनासिक nasal	マ m			ナ n		ण	ञ	ङ
震え音 लुठित trill				(ラ) र				
弾音 उत्क्षिप्त flap				r		ड ढ		
破擦音 स्पर्षसघर्षी affricative							チジ च छ ज झ ch j	
摩擦音 सघर्षी fricative	フ	フ व f v	th	サ स ज s z	シ श sh		ヒ	
側音 पार्श्विक lateral				ル l				
半母音 अर्द्धस्वर approximant							ヤ य y	

²⁶⁾ 口蓋垂音 जिह्वामूलीय uvular (閉鎖音 क़, 摩擦音 ख़, ग़), 声門音 स्वरयंत्रीमुखी glottal (摩擦音 ह़) は省略してあります。

ヒンディー語(日本語)に入った英語からの借用語や、インド人(日本人)の話す英語の特徴を観察してみましょう。

借用語の例

日本語	ヒンディー語	英語
タクシー	टेक्सी <i>taikṣī</i>	taxi
ドクター	डाक्टर <i>dāktarā</i>	doctor
シアター	थिएटर <i>thiētarā</i>	theatre

会話の例

日本人	アイ	スィンク,	ユー	アー	ゴーイング	ゼア	フォー	ザ	ファースト	タイム.
インド人	आइ	थिंक,	यू	आर	गोइंग	देअर	फ़ार	द	फ़र्स्ट	टाइम ।
	āi	tʰiŋkʰ,	yū	ār	goiŋgʰ	dearʰ	fārʰ	da	fərstʰ	tāimʰ ।
英国人	I	think,	you	are	going	there	for	the	first	time.

8 読み方の練習

ここでは、動物の名前を辞書の配列順にだしておきます。

読み方と同時に、雄と雌の区別も注意してください。

अजगर	ajagarā	m.	ボア (boa), 大蛇, うわばみ
ऊँट	ūtā	m.	(雄) ラクダ
ऊँटनी	ūtānī	f.	雌ラクダ
कंगारू	kaṅgārū	m.	カンガルー
कछुआ	kachuā	m.	カメ, 亀
कनखजूरा	kanakṣūrā	m.	ムカデ, 百足
कस्तूरी - मृग	kastūrī-mṛgā	m.	ジャコウジカ, 麝香鹿
किलनी	kilānī	f.	ダニ
कुतिया	kutiya	f.	雌イヌ, 雌犬
कुत्ता	kuttā	m.	(雄) イヌ, 犬
केंचुआ	kēcuā	m.	みみず
केकड़ा	kekṛā	m.	カニ, 蟹
केसरी	kesarī	m.	ライオン, 獅子
खच्चर	khaccarā	m.	(雄) ラバ
खच्चरी	khaccarī	f.	雌ラバ
खटमल	khataṃmalā	m.	ナンキンムシ, 南京虫
खर	xarā	m.	ロバ
खरगोश	xaragōśā	m.	ウサギ, 兎
गधा	gadḥā	m.	(雄) ロバ
गधी	gadḥī	m.	雌ロバ
गाय	gāyā	f.	雌牛
गिरगिट	giragita	m.	カメレオン
गिलहरा	gilaharā	m.	雄リス
गिलहरी	gilaharī	f.	(雌) リス
गीदड़	gīdarā	m.	(雄) ジャッカル, 山犬
गीदड़ी	gīdarī	f.	雌ジャッカル, 山犬
गैंडा	gāidā	m.	サイ, 犀
गोजर	gojarā	m.	ムカデ, 百足
गोरिल्ला	gorillā	m.	ゴリラ
गोह	gohā	f.	イグワナ, 大とかげ (iguana)
घड़ियाल	ghariyālā	m.	ワニ, 鱷
घोंघा	ghōghā	m.	カタツムリ
घोड़ा	ghoṛā	m.	(雄) ウマ, 馬
घोड़ी	ghoṛī	f.	雌ウマ

चमगादड़	camagādaṛṛṣ	m.	(雄) コウモリ
चमगिदड़ी	camagidārī	f.	雌コウモリ
चीता	cītā	m.	ヒョウ, チーター
चुहिया	cuhiyā	f.	雌ネズミ
चूहा	cūhā	m.	(雄) ネズミ, 鼠
चौपाया	caupāyā	m.	(四つ足の) 動物
छल्लूंदर	chacḥūdarṛṣ	f.	モグラ
छिपकली	chīpākālī	f.	ヤモリ
जिराफ़	jirāfṛṣ	m.	キリン
जेबरा	zebārā	m.	シマウマ, 縞馬
जोंक	jōkṛṣ	f.	ヒル
झींगा	jhīgā	m.	エビ (prawn)
झींगी	jhīgī	f.	小エビ (shrimp)
टट्टू	taṭṭū	m.	ポニー (pony)
तेंदुआ	tēduā	m.	(雄) ヒョウ
तेंदुई	tēduī	f.	雌ヒョウ
दादुर	dādī	m.	カエル, 蛙
नाग	nāgṛṣ	m.	(雄) コブラ
नागिन	nāginṛṣ	f.	雌コブラ
नीलगाय	nīlāgāyṛṣ	f.	アンテロープ (antelope)
नेवला	nevālā	m.	マングース
पिल्ला	pillā	m.	(雄) 小犬
पिल्ली	pillī	f.	雌小犬
बंदर	baṇdarṛṣ	m.	(雄) サル, 猿
बंदरिया	bādarīyā	f.	雌サル
बकरा	bakārā	m.	雄ヤギ, 山羊
बकरी	bakārī	f.	(雌) ヤギ, 山羊
बछड़ा	bachṛārā	m.	(雄) 子牛
बछिया	bachiyā	f.	雌子牛
बछेड़ा	bachērā	m.	(雄) 子馬
बछेड़ी	bachērī	f.	雌子馬
बनमानुस	baṇmānusṛṣ	m.	類人猿 《チンパンジー, ゴリラ, オラウータンなど》
बबर-शेर	babarṛṣ-śērṛṣ	m.	ライオン, 獅子
बाघ	bāghṛṣ	m.	(雄) トラ, 虎
बाघिन	bāghinṛṣ	f.	雌トラ

बारहसिंगा	bārahṣiṅgā	m.	雄の大鹿
बिच्छी	bicchī	f.	雌サソリ
बिच्छू	bicchū	m.	(雄)サソリ, 蠍
बिल्ला	billā	m.	雄ネコ
बिल्ली	billī	f.	(雌)ネコ, 猫
बैल	bailā	m.	雄牛
भालू	bhālū	m.	クマ, 熊
भेड़	bheṛā	f.	(雌)ヒツジ, 羊
भेड़ा	bheṛā	m.	雄ヒツジ
भेड़िया	bheṛiyā	m.	オオカミ, 狼
भैंस	bhāisā	f.	(雌)水牛
भैंसा	bhāisā	m.	雄水牛
मकड़ा	makḍrā	m.	雄グモ
मकड़ी	makḍrī	f.	(雌)クモ, 蜘蛛
मगरमच्छ	magarḥmacchā	m.	ワニ, 鱷
मवेशी	maveśī	m.	家畜
मूस	mūsā	m.	ネズミ, 鼠
मृग	mṛgā	m.	(雄)シカ, 鹿
मृगी	mṛgī	f.	雌ジカ
मेंढक	mēḍhakā	m.	(雄)カエル, 蛙
मेंढकी	mēḍhakī	f.	雌ガエル
मेढ़ा	meṛhā	m.	雄ヒツジ
मेमना	memnā	m.	子羊, 小羊
याक	yākā	m.	ヤク (yak)
रीछ	rīchā	m.	(雄)クマ, 熊
रीछनी	rīchānī	f.	雌グマ
लंगूर	laṅgūrā	m.	ラングール
लकड़बग्घा	lakaḍḍbagghā	m.	ハイエナ
लोमड़ी	lomḍrī	f.	キツネ, 狐
शेर	śerā	m.	(雄)ライオン, 獅子
शेरनी	śerānī	f.	雌ライオン, 雌トラ
साँड़	sāṅḍā	m.	種牛
साँड़नी	sāṅḍānī	f.	(人を乗せる足の速い)ラクダ

साँप	sāpṣ	m.	(雄)ヘビ, 蛇
साँपिन	sāpinṣ	f.	雌ヘビ
साही	sāhī	m.	ヤマアラシ
सिंह	siṃhṣ	m.	(雄)ライオン, 獅子
सिंहनी	siṃhṣnī	f.	雌ライオン
सियार	siyārṣ	m.	(雄)ジャッカル, 山犬
सियारिन	siyāriṣ	f.	雌ジャッカル
सूअर	sūarṣ	m.	(雄)ブタ, 豚
सूअरी	sūarī	f.	雌ブタ
हथिनी	hat ^h iṣnī	f.	雌ゾウ
हाथी	hāt ^h i	m.	(雄)ゾウ, 象
हिरन	hiranṣ	m.	(雄)シカ, 鹿
हिरनी	hirṣnī	f.	雌シカ